

P-3-2

超音波検査装置を用いた de Quervain 病の一例

Case Study of de Quervain Disease using Ultrasonography

○名和 史朗, 柏崎 保昌

浜松大学健康プロデュース学部健康柔道整復学科

De Quervain disease is frequently encountered in clinical practice. Because the incidence of the disease is high in women, its etiology is thought to be hormonal imbalance. However, in previous studies some patients have been reported to have a septum between the tendons of the abductor policis longus (APL) and extensor policis brevis (EPB) in the first extensor tendon compartment of the wrist, and even multiple APL and EPB tendons. Here, we report our recent encounter with a patient who had de Quervain disease accompanied by a septum and two APL tendons.

【背景】

De Quervain 病は、临床上頻繁に遭遇する疾患である。女性の罹患率が高いことから、ホルモンバランスの乱れに起因する疾患である、と考えられている。また、患者の手関節伸筋腱第 1 区画内において、隔壁や、複数の APL と EPB の存在が報告されており、それらの存在は難治例となる。今回、隔壁と 2 本の APL が存在する de Quervain 病を経験したのでここに報告する。

【症例】

男性, 21 歳。柔道整復師養成校の学生であり、手技を練習中、右橈骨茎状突起部に強い疼痛を感じたため、超音波装置(日立アロカメディカル株式会社製 F37)を用いて右手関節伸筋腱第 1 区画内を観察した。なお、探触子は 10MHz メカニカルセクタを使用した。

【結果】

右橈骨茎状突起部を短軸像にて隔壁と APL 及び EPB を確認した結果、隔壁が存在し APL が 2 本、EPB が 1 本存在していた。右手指の安静を指示し 3 週間後に再診した結果、Eichhoff テスト・Finkelstein テストともに陰性であり、第 1 区画の圧痛も消失していたので症状の寛解と判定した。

【考察】

屍体手における第 1 区画内の隔壁の存在率は 24-75%と報告されている。一方、de Quervain 病において手術により隔壁の有無を確認した報告では、隔壁の存在率は 67.5-91%と有意に高率であり、隔壁の存在が本疾患の発生に影響を及ぼすことが判った。